

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

299号

2015年12月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

社会を変えるために民衆は固く団結し、 来年の国会議員選挙で勝利しなければならない

11月14日(土)、13万名もの国民が「社会を変えるための民衆総決起大会」に参加するためソウルに集結した。総決起大会は午後4時から光化門広場で開催される予定であったが、政府の源泉封鎖宣言通り、警察車両で壁を作り大会を開かせようとせず、押し寄せた民衆と衝突した。警察は民衆に唐辛子成分のカプサイシンを混入した水を放水銃で放ち、全羅南道から参加したペク・ナムギさん(69歳)が放水銃の直撃を受け危篤状態に陥っている。民衆たちは総決起大会の前に、各分野別で青年学生大会、労働者大会、貧民大会、農民大会、市民大会を開催して光化門広場に集結した。なぜ13万人もの民衆が集まったのだろうか？

■朴槿恵政権の公約破棄

経済大統領として期待され登場した李明博(イ・ミョンバク)政権の内外政策はことごとく失敗し、国民の生活はより一層苦しくなった。そうした中で行われた前回の大統領選挙で夢の公約をしたがえ登場したのが朴槿恵である。憲政史上初めての女性大統領候補、「漢江の奇跡」と言われた経済発展を指導した朴正熙(パク・チョンヒ)大統領の長女という知名度の高さゆえに大統領に当選した。しかし、国家情報院をはじめ国家機関が選挙に不正介入して、野党候補が落選するよう仕向けていた事実が発覚した。国民の怒りは朴槿恵政権退陣闘争へと発展したが、朴政権は公安弾圧で対応した。以降、就任時の「国民全員が幸せになれる国を作る」という公約は破棄されたのである。

「経済の民主化」という名の公約は、富ある者にますます富が集中する財閥優遇政策になり、福祉の拡充は後退し、教育改革は頓挫し、「増税しない」と言いながら増税するというだまし討ちを

行った。また正規職が優遇されているとして「業績が低い者を解雇できる(低成果者解雇)」などを制度化しようとしている。

農業政策に関しても、主食用コメ輸入まで押し通し、コメ価格は暴落した。自由貿易協定(FTA)や、環太平洋経済パートナー協定(TPP)の加入まで検討している状態は農民に対して「死を待て」と言っているのと同じである。

セウォル号惨事の解決においても真相究明のための特別調査委員会の活動は制限されたままである。国民と対話することを嫌い、意思疎通にかけると揶揄されても、顔色一つ変えず嘘をつける鉄面皮な政権である。挙句の果て、日本帝国主義の手先として働いた新日派を擁護するため、尊敬してやまない父親の悪行を覆い隠すために歴史教科書の国定化を強行した。国民の怒りが増大するのは当然と言える。



▲民衆を放水銃で弾圧する朴槿恵政権

■第2次民衆総決起大会

12月5日(土)第2次民衆総決起大会が予定されている。政府は前回以上に厳しく源泉封鎖するだろう。警察は今回の民衆総決起大会を共同主催した40以上の団体の代表を召還調査するとして大規模な捜査を行っている。非常に厳しい闘いになるだろうが、民衆の力で第2次民衆総決起大会を成功させなければならない。そして、来年の国会議員選挙では党利党略を乗り越え、各政治家の利益を超越し、政党・労働界・市民が社会を変えるために叡智を絞り出し、セヌリ党との1対1の構図を必ず作り勝利しなければならない。野党や進歩勢力が分裂すれば、セヌリ党が勝利を手にすることは明らかである。韓国民衆の大団結を熱く願い、勝利することを信じている。(金昌秀)

天候に恵まれ、バーベキューで 親睦と交流を深める

韓統連大阪本部 2015年秋期野遊会

韓統連大阪本部会員、地域同胞間の親睦と交流を深めるため「2015年秋期野遊会～みんなでバーベキューを楽しもう～」が11月1日(日)、久宝寺緑地公園(大阪府八尾市)で開かれた。

数年ぶりの開催となった野遊会では、最初に金隆司(キム・ユンサ)韓統連大阪本部代表委員が「天候にも恵まれ、今日は普段なかなか参加できない会員の皆さんなどと親睦と交流を深め、楽しい一時を過ごしましょう」と乾杯挨拶を行った。



▲野遊会参加者との記念写真

次に、初めて韓統連大阪本部の行事に参加する会員などを紹介した後、七輪を囲んでバーベキューなどを食べながら参加者同士の親睦と交流を深めるとともに、各チームに分かれてのクイズ大会を行い、豪華賞品の獲得に向け熱戦が繰り広げられ野遊会の雰囲気を盛り上げた。

また韓統連大阪本部、生野支部の今後の行事紹介と、11月15日から始まる2016年韓国国会議員選挙在外同胞選挙人登録などの案内を行い、最後に李鐵(イ・チョル)韓統連大阪本部常任顧問が閉会挨拶を述べ、野遊会は終了した。

韓国70年代・80年代 民衆運動の模索と成長について学ぶ

韓統連生野支部現代史セミナー③

韓統連生野支部が9月から開催している「ウリ現代史セミナー2015」の第3回「抑圧と闘争の中から～民衆運動の模索と成長～」が11月8日(日)、生野支部事務所で開かれた。

セミナーでは、金昌秀(キム・チャンス)韓統連生野支部代表委員が開会挨拶を行った後、1972年の維新体制から1987年の6月民主抗争までを金昌範(キム・チャンボム)副代表委員と金正樹(キム・ジョンス)組織次長が分担して報告した。

最初に金昌範副代表が「1972年10月の維新憲法＝維新体制とは、▲統一主体国民会議による間接選挙で大統領選出、▲大統領が国会議員の3分の1を推薦することができるなど、朴独裁政権が永久執権できるようにした仕組み」と解説して、「労働者・宗教者などは、このような永久執権を阻止して民主化と統一を実現するための反独裁民主化運動に立ち上がり、この運動は国内だけでなく、日本をはじめ海外でも活発に行われた」と述べた。そして「70年代後半には、釜山・馬山民主抗争など反独裁の声がますます高まる中、朴独裁政権は孤立を深め、ついに自らの部下によって朴大統領は暗殺され、朴独裁政権は終焉した」と語った。



▲6月民主抗争の闘いなどを報告する金正樹組織次長

続いて、金正樹組織次長が報告した。金組織次長は朴独裁終焉後の状況について、「朴政権によって弾圧された人々の名誉回復が行われ、政治活動の活発化など民主化を要求する声が高揚し、こうした雰囲気を“ソウルの春”と謳われたが、全斗煥(チョンドウファン)を中心とする軍部が非常戒厳令を発布して実権を掌握した」と述べた。そして「こうした軍部の弾圧に抗議し、80年5月に光州民衆抗争が起こったが、全斗煥は韓国軍の統帥権を有する駐韓米軍司令官から軍による鎮圧の承認を受け、多くの光州市民を虐殺・拘束するという蛮行を行い、大統領に就任した」と語るとともに、

「光州民衆抗争を契機に、民衆の中に米国が軍事独裁政権を後押しして民主化の障害になっているという認識が広がり、以降、反米運動が展開された」と指摘した。

続いて、金組織次長は全斗煥政権下での学生運動及び労働運動などを紹介しながら、「87年1月の朴鍾哲(パク・ジョン Chol)君の拷問死を機に、一気に政権批判が高まり6月民主抗争へと拡大、6・29民主化宣言へとつながった」と述べ、「6月民主抗争は100万人を超える民衆が立ち上がり、民主化をかち取る偉大な闘いだ」と語った。

報告終了後は、活発な質疑応答を行い、現代史セミナー第3回は終了した。

11・22事件から40年、在日韓国人政治犯の再審無罪の意味などを考える 11・22市民集会

朴正熙独裁時代の1975年11月22日に起きた「学園浸透スパイ団事件」から今年40年を迎え、「在日韓国人政治犯とあい次ぐ再審無罪判決の意味を考える11・22市民集会(主催:同実行委員会)」が11月22日(日)、浪速区民センター(大阪市浪速区)で開かれた。

集会は1部・2部形式で進行され、第1部では実行委員会を代表して柳英敦(ユ・ヨンス)さんが主催者挨拶を行った後、映像資料が上映され、続いて、在日韓国良心囚同友会の李哲(イ・ Chol)さんが基調報告を行った。

李哲さんは報告を通じ「40年前、不当に拘束され重刑を受けた私たちは、日本での様々な救援活動で勇気もらい、力を得て、生きて出所することができた」と述べた。そして、在日韓国人政治犯に対する相次ぐ再審無罪判決がなぜ実現したのかについて、「在日韓国人政治犯の無罪を主張してきた私たちの闘いの成果であり、私たちと救援運動が40年間手を取り合っただけでかち取った歴史的な勝利だ」と強調し、最後に今後の課題として▲在日同胞の全被害者を救済する韓国における特別立法の制定▲日本政府に対して在留資格を原状回復するよう求める活動などを指摘しながら「皆さん共に闘いましょう」と訴えた。

第2部では李政美(イ・ジョンミ)さん、板橋文夫さんによるコンサート、韓国から来られたイム・ジンテクと吉音パンソリ団によるパンソリの発表で集会雰囲気は盛り上がり、最後に集会参加者全員で「再会」を合唱して、市民集会是終了した。

〈次代を担う若者たち－韓青大阪本部 活動紹介－〉

アンニョンハシムニカ、韓青大阪本部の李俊一(イ・チュニル)です突然寒くなってきましたね。皆様お元気ででしょうか？私はこの寒さに急ぎよ我が家にこたつを導入しました。寒い中ですが、今月も韓青大阪本部は元気に活動しています。11月22日には、JR鶴橋駅前前で街頭宣伝活動をしてきました。最近、韓国国内で大きな問題となっている朴槿恵政権の「歴史教科書国定化」に抗議するためです。

宣伝活動当日ですが、参加者の中には初めて宣伝活動を行うメンバーもいましたので、事前準備をしっかりと臨むことにしました。昼頃に本部に集まり情勢学習会を行ってうえて、自分が何をアピールしたいのか、それぞれ原稿を作成したうえて街頭に出て行きました。いざ始めてみると、自作のパネルが分かりやすかったのか、いつもよりも反応が良いように感じました。参加者全員に発言してもらいましたが、不慣れながらも気持ちの入った良いアピールができたと思います。

韓国では現在も厳しい状況の中で闘いつづけている人たちがたくさんいます。そのような韓国民衆に思いはせながら、私たちも日本の地でできる限りのことをしていきたいと思います。

2015年も終わりに近づいてきました。慌ただしい日々が続きますが、これからも精力的に活動していきたいと思います。



▲街宣に参加した韓青メンバー

日本軍「慰安婦」問題全国行動 全国会議 韓国挺身隊問題対策協議会 尹美香常任代表講演会 参加報告 李鐵 (イ・ Chol)

1990年11月16日、韓国の37ヶ女性団体の連合体として結成された韓国挺身隊問題対策協議会(挺対協)は今年、結成25周年を迎えました。11月21日～22日まで東京で開催された日本軍「慰安婦」問題全国行動主催の全国会議に尹美香(ユン・ミヤン)常任代表が招かれ、11月2日、韓国大統領府で開催された韓日首脳会談後の日本軍「慰安婦」問題解決への取り組みに関する協議に参加するのを機に、挺対協の25年を語ってもらおうと講演会が開かれました。大阪でも11月23日に尹美香代表をお迎えして、佐藤大さんとのクロストークも交え「「慰安婦」問題解決のために扉をたたき続けよう!～被害者が受け入れられる解決を～」と題した講演会もエルおおさか南館で開催しました。

東京韓国YMCA9階ホールには100名以上の参加者が集まり、学界から「アジア女性基金」にかかわった東大名誉教授の和田春樹さん、歴史学者で中央大教授の吉見義明さん、在日外国人問題などが専門の一橋大名誉教授の田中宏さん、プレス関係では朝日、日経、共同通信の他、韓国の報道関係者も参加していました。その他にも東京で活動している女性と人権に関わる多くの市民団体関係者が参加していました。

講演では、挺対協初代代表の尹貞玉(ユン・ジョン)元梨花女子大教授)さんが、日本軍「慰安婦」問題に関係するようになった経緯を尹代表は次のように語りました。「1943年、梨花女子専門学校(梨花女子大の前身)に在学中だった彼女は“1年生は全員本館1階の部屋に集まれ”との集合命令を受け、日本の軍人と思しき人物らが青いインクでゴマ粒ほどの字で書かれたA4用紙を配った。彼女は紙に書かれた内容を読むことも、聞くこともできなかった。無条件に指紋を押せと言われ指紋を押し、その紙を軍人らが回収した。彼女は挺身隊に行くことを同意させられたと思った。その時「慰安婦」という言葉さえ知らなかった。その翌日、彼女は学校を自主退学して難を逃れたが、自分と同じ世代の女性が受難し、自分も同じ目にあう運命だったとの思いから、この運動を始めた」と語った。

また1991年8月、金学順(キム・ハクソン)さんが自ら「慰安婦」であったと名乗り出て、社会の大きな関心事となり、ホットラインを設けて被害者の訴えを受付ることなどが、尹代表から語られた。



▲挺対協の25年について講演する尹美香常任代表

尹代表は「挺対協を反日団体と日本では紹介されているが、決して反日ではない。被害者の一人の金福童(キム・ボットン)ハルモニ(お婆さん)は、“日本政府が私たちを強くした。犯罪の事実を認めない姿勢が続き強くならざるを得なかった”と被害者に励まされた25年でもあった」と語り、さらに「韓国社会も運動を始めた頃は被害者に関心を示さず、女性人権博物館建設資金を集めるために各企業に要請したが断られた」と述べ、「断られたこともショックだったが、もっと衝撃だったのは“企業イメージを損なう”と言って断られたことだ。韓国政府も民間団体への資金提供はできないと断られた。しかし、日本の市民団体が博物館建設日本委員会を立ち上げ、多くの資金の提供を受け建設に至った。実に9年の歳月を要した」と語った。

そして、日本大使館前に平和の碑(少女像)を建立する経緯についても言及し、「一般に少女像と言われているが、正式には“平和の碑”です。日本大使館前に建立したのは、水曜デモが1千回目を迎えて、すっかり平和を祈念する場所となっていたことから、ここに“平和の碑”を建立することになった」と述べた、今やソウルの観光マップにも「平和の碑」が紹介されています。

尚、尹常任代表の話がここで見られます。のりこえネットTV尹美香×梁澄子×北原みのり

https://www.youtube.com/watch?v=Cp_Svv_2auo

◆コラム◆

酒の「正宗」

古来、東アジアの国々は多くの漢字語をその言葉の中に用いてきた。それぞれに漢文を通じた文化交流の歴史があり、各国に共通する語彙(ごい)もまた多い。しかし、同じ字の単語でありながら、各国で微妙にニュアンスが違ったり、全く違う意味を持つ言葉もある。たとえば韓国語の「境遇(キョウウ)」は日本語の「場合」の意味を持っており、韓国語の「議論(ウイソ)」は日本語とおおよそ同じ意味だが「相談」のニュアンスもある。

「正宗」もまたそのような言葉だ。日本では普通「まさむね」と読み、清酒や刀を思い出す人もいれば、読みから伊達政宗を思い出す人もいるだろう。また「せいしゅう」と読めば話が違って正統な宗派という意味が出てくる。

一方、韓国で「正宗(チョンジョン)」は日本と同じく「正統な宗派」という意味もあれば、「日本の清酒」という意味もある。正統な宗派というのは漢字から分かるが、韓国でも清酒の意味があり、なおかつ日本のものと限られているのは少し意外な気もする。

韓国で日本酒が飲まれ始めたのは近代に入ってからだ。ただ、韓国にも伝統的に作られ続けた清酒(薬酒)があり、日本酒の文化が流入した際、従来の韓国の清酒とは異質な日本の清酒には広く出回っていた「桜正宗」「菊正宗」などの商品名から、俗に「正宗」の呼称が与えられた。

そのような経緯があって、韓国のお年寄りには日本の清酒を「正宗(チョンジョン)」と呼ぶ。バンドエイドや正露丸のように、商標そのものが一般名詞になった例の一つだろう。日本においても「正宗(まさむね)」は日本酒の慣用商標

となっており、各地に「正宗」の文字がつく日本酒がある。

但し、現在の韓国では日本酒は「日本の酒(イルボンスル)」とか、そのまま「サケ」と

呼ばれている。日本の清酒を「正宗」と呼ぶ人は徐々に少なくなっているようだ。

そのように「正宗」を理解していたところ先日、輸入食料品店の店頭に並んでいた中国の高梁酒の一種、二鍋頭酒(アルコール度数)のラベルに「正宗」と書かれているのを見かけた。そういえば昔、中華料理店に並ぶ酒のラベルにも「正宗」の字があったと思い出し、てっきり中国にも韓国や日本と同じく正宗に酒の意味があるのかと勘違いした。

しかし後になって、高粱酒と日本の清酒は全く違うものだと思い直し、改めて辞書を引けば中国語の「正宗(チョンゾン)」は「正統」や「本物」の意味だとある。したがって中国の酒につく「正宗」は日本・韓国とまた別の意味があり、この「正宗二鍋頭酒」は「本物の二鍋頭酒」ということになる。

言葉の意味をめぐる勘違いの罣は至るところにあるもので、言語を勉強する際には正しい意味をしっかりと調べるべきだと改めて思わされた。しかし今後、居酒屋で「正宗」の二文字を見るたびにこの勘違いを思い出すかと思うと、少し苦笑いしたくなる。(好)



◆読書紹介◆

「独学でよかった 読書と私の人生」

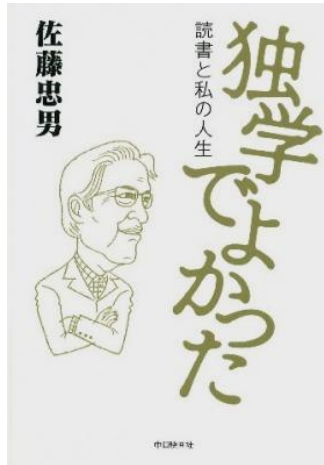
著者 佐藤忠男

中日映画社 / 1600円+税

「映画と本が世界を広げる」。趣味が映画鑑賞と読書の私は、表紙に書かれたこのキャッチコピーに惹かれて本書を購入しました。著者の佐藤忠男さんは50年以上にわたって映画評論活動を行っている映画評論家です。

本書は読書という独学によって映画評論活動が続けてきた著者のエッセイです。本の133ページにある「なにしろ映画というのはじつに多様な方面への関心をかき立ててくれるもので、映画批評などをやっている、興味を持った作品をより深く理解しようとするれば、じつに多様な本を読みたくなる」という部分は、映画と本の関連性についての的確に表して、映画と本はクルマの両輪のような存在であると感じました。

読書については250ページに「読書は好きな本を読むのが基本だが、少し背伸びして、自分が尊敬したいと思う人にあやかるようにすると着実に視野が開ける。それは別に難しい本を読めということではない。他人や他国や他文化、そして、知らないものの考え方に極力親しみ視野を開こう



ということである」という部分が印象に残りました。

映画については256ページ～257ページの「映画こそ世界の多くの国々の人々が互いに知り合い、好意を持ちあう文化交流の第1線にあるものだということ。映画で交流し合うことによって、世界の文化はごちゃ混ぜになり、世界共通の文化が成り立つ可能性もあるし、それへの拒否反応も生じる。今、世界の映画史上を利しているのはアメリカだが、アメリカニズムが世界のスタンダードになることには各地で強い反発がある。そこで、そうはならないようヨーロッパ諸国は懸命になって合作やら資本の融資やらで助け合っているが、日本も、そしてアジア、アフリカ、中南米の諸国も協調して文化的な力を発揮しなければならない。その時こそ、古今東西の映画に通じた人間は、ますます必要になる」という部分が印象に残りました。

映画好きの人にとっても、本好きの人にとっても、両方ともお勧めできます。(李淳明)

◆◆行事案内◆◆

<p>2015年 韓統連大阪本部 送年のつどい 日時：12月13日(日) 午後5時 受付 午後5時30分 開会 場所：ばだん(つるはし交流ひろば) (JR・地下鉄“鶴橋”駅下車徒歩10分) 大阪市生野区鶴橋2-15-28 内容：パワーポイントによる 2015年の情勢・活動を振り返る 他 会費：2千円(お酒を飲まない方は1500円) 主催：韓統連大阪本部 TEL06-6711-6377</p>	<p>韓統連生野支部 ウリ現代史セミナー第5回 「変革と反動の相克 自主・民主・統一運動の今日的課題」 日時：12月20日(日) 午前11時～ 場所：韓統連生野支部 (地下鉄北巽駅下車、徒歩7分) 参加費：会員300円 一般500円 教科書代：500円 連絡先：090-4495-3863(金)</p>
---	--

編集後記
 先月号で紹介しました「ブラック企業大賞2015」、今年の大賞は大手コンビニ会社が選ばれました。韓国では民主労総の事務所を警察が19年ぶりに家宅捜査を行うなど、朴政権と民主労総との対立が激しくなっています。年末ですが、韓国内の情勢に目が離せません。(ソン)